

- ◆ 『Intelligence』購読会員の皆さまへ：ニュースレターNo.2
(2012年6月号) ◆

購読会員の方々限定の月刊のニュースレター第2号をお送りします。皆さまからのご意見、ご希望をお寄せいただければ幸いです。「Intelligence」、会員さま専用サイトとあわせてご覧ください。

【5月研究会の概要：第68回】(5月28日午後2時半～5時) 司会：川崎賢子

- ・ 島田顕 モスクワ放送関係史資料第1回調査報告
島田先生は「ムヘンシャン—モスクワ放送最初の日本人アナウンサーの軌跡」などを発表していらっしゃいます。今回は、VOA、BBCの対抗的プロパガンダ組織としてモスクワ放送史研究プロジェクト (radio_moscow_m20th@yahoogroups.jp がメーリングリストアドレス。皆さまの共同研究への参加とご支援を募っています) の一環としてのモスクワ調査の報告をしていただきました。
- ・ 嶋村藤吉 日本人のニューディーラーとしての岡野進—日本共産党の計画を中心として
嶋村先生は『日本国憲法オカノススム起源論』の著作をお持ちですが、今回は「1944年9月8日付、日本共産党の計画」資料をめぐって報告をしていただきました。
- ・ 山本武利 陸軍中野学校の創立期の資料
20世紀メディア研究所の顧問である山本先生には陸軍中野学校創立期における、防諜研究所から陸軍後方勤務要員養成所をへて陸軍中野学校へと改称された過程、学生、教官、カリキュラム等の新発見資料について発表していただきました。
この新資料につきましては「陸軍中野学校の創設期判明」として5月26日付の時事通信 (<http://www.jiji.com/>) で配信され「東京新聞」「河北新報」等に記事が掲載されました。

※なお、研究会当日に配布されたレジュメは、会員ホームページにアップされる予定です。<http://www.bunsei.co.jp/ja/intelligenceuser.html> (閲覧は『Intelligence』購読会員に限定されています)

●次の6月の研究会は、6月23日(土曜日)午後2時30分から6時までの予定で、松本知珠、田島奈津子、Nancy Snowの三氏にご報告頂く予定です。7月は28日(土曜日)、8月は夏休みで、9月は29日(土曜日)、10月は27日(土曜日)に研究会開催の予定です。ご報告御希望の方は、20世紀メディア研究所事務所までご一報下さい。
m20th@list.waseda.jp

【気になる新著や記事の紹介】[敬称略]

古谷鏡子『命ひとつが自由にて—歌人・川上小夜子の生涯』(影書房)は前田夕暮、北原白秋に師事した歌人の評伝。第5章では戦後占領期について、川上が発表した歌誌『短歌研究』『日本短歌』および彼女が創刊した『婦人文化』などの雑誌と検閲の記録を、プランク文庫資料によって分析しています。2010年4月の第54回20世紀メディア研究会占領期雑誌資料大系文学篇刊行記念シンポジウムにてゲスト・スピーカーをつとめていただいた

小説家の赤坂真理が「東京裁判の通訳をした母」と娘のアメリカ体験というテーマに取り組んだ『東京プリズン』（河出書房新社）が7月に刊行されます。編集委員の川崎賢子は岩本憲児編著『村山知義 劇的尖端』（森話社）に「『忍びの者』の周辺―戦後の村山知義と一九二〇～一九三〇年代の語り直し」を寄稿しました。

【今月のコラム】

20世紀のマルクス主義文化とモダニズム文化の交差する領域で活躍した村山知義の没後35年、「村山知義の宇宙 すべての僕が沸騰する」展が、神奈川県立近代美術館葉山館、京都国立近代美術館をへて7月14日から9月2日まで世田谷美術館で開催されます。村山は1920年代のベルリンに留学し、美術、建築、ダンス、戯曲、舞台美術、演出、映画、小説、評論と多様なジャンルで才能を発揮しました。朝鮮半島の文化人との交流、中国との深い関係でも知られます。ワークショップや講演などの関連企画も充実していますが、なかでも五十殿利治「村山知義のベルリン1922」（7月21日14:00～）、やなぎみわ演劇プロジェクト「1924 人間機械」（8月3日16:00～、4日・5日14:00～）が楽しみです。

[6月15日付文責：川崎]